

岩手中山間地域の教育課題に応じた小中高一貫のモデルカリキュラム(その1) ～総合的学習および特別支援教育について～

田代 高章・小岩 和彦・菅野 弘*, 千葉 邦彦**, 川原 恵理子・佐藤 和生・生平 駆・
小野寺 峻一・高橋 龍太郎・佐々木 尚子・板井 直之・原田 孝祐・大森 響生***
(2020年2月13日受付)
(2020年2月14日受理)

Takaaki TASHIRO, Kazuhiko KOIWA, Hiroshi KANNO, Kunihiko TIBA, Eriko KAWAHARA,
Kazuo SATO, Kakeru OIDAIRA, Syunichi ONODERA, Ryutaro TAKAHASHI, Naoko SASAKI,
Naoyuki ITAI, Kosuke HARADA, Hibiki OMORI

Development of a Model Curriculum for Integrated Elementary and Junior High School and
High School Education which Responds to Iwate's Educational Issues (1)
: Focusing on Integrated Learning and Special Support Education

要 約

本研究は、平成29・30・31(2017・2018・2019)年に改訂告示された小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学習指導要領を踏まえながら、教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)の1年次講義科目である「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」(前期必修)、および「学習指導要領とカリキュラム開発」(後期必修)の成果の一つとして、一定の特色あるテーマをもとに校種をつなぐモデルカリキュラムを開発提案するものである。その際、岩手県の特性を生かし、本論文の前提として、少子高齢化による人口減少の中山間地をモデルにすること、小中高の一貫教育を念頭においたモデルカリキュラムにすること、という条件を定め、あわせて、学力向上、復興・地域創生、通常学級における特別支援教育の充実という岩手の教育課題を念頭に、算数・数学科、外国語、総合的学習、特別支援教育の4つのテーマを取り上げて、独自のモデルカリキュラムを提案し、岩手の学校教育実践の発展向上を目指す研究である。本論文は、そのうち、総合的学習、特別支援教育の全体カリキュラム案を提示する。

第1章 本研究の趣旨・目的

本研究の目的は、少子高齢化が進む岩手県の中山間地における学校を想定して、岩手の教育課題に即した一定のテーマに焦点化しつつ、小中高一貫のモデルカリキュラムを提示することである。

平成29・30・31年改訂の小・中・高・特支の学

習指導要領では、将来の不確実で多様な社会像を見据え、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という表現にも象徴されるように、学校教育で学んだことが将来の社会において活用できる力の育成を目指している。このように「社会に開かれた教育課程」を通して、学校教育では、子どもたち個々に生涯にわたって学び続ける力を

*岩手大学大学院教育学研究科, **岩手県住田町教育委員会指導主事, ***岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻

育て、自らの人生を切り拓くとともに、学校内外の多様な他者と協働して、これからの社会の創造に寄与しうる力を育むことが求められている。そして、学校教育において子どもたちに育み、自らの将来の人生と社会の創造にもつながる力を、今回改訂の学習指導要領では「資質・能力」という言葉で強調している。

そのために、学校が家庭や地域と協働しながら、将来の社会を創る担い手を育む環境を整え、学校教育の質全般を高める必要がある。「社会に開かれた教育課程」も、学校から家庭・地域への横の広がり、現在の学校で学んだことが子どもの生涯発達に即して将来の社会にも開かれる、縦のつながりとしての両側面を意味するといえる。

何よりも、現在の子どもたちの実態や家庭や地域の現実に照らしながら、現在から未来に向けて、学校教育でどのような力、すなわち、「資質・能力」を育む必要があるかを、各学校において意識しつつ、それらの力を育むのにふさわしい教育内容(教科等の内容、単元内容等)と、主体的・対話的で深い学びという授業改善の視点を生かした適切な教育方法が工夫され、それらの教育活動全般の有効性を適切に評価し、教育活動の絶えざる修正・改善に努めていくことが求められる。いわゆるカリキュラム・マネジメントの視点から、保護者・地域の人々等の協力も得ながら、常に教育改善に努めていくことが学校・教職員、学校関係者全般に求められる状況にある。

特に今回改訂の学習指導要領では、各教科や専門性に基づくミクロな観点のみならず、個々の子どもの成長発達という人生全体で、子どもに応じた「資質・能力」を伸ばすために、マクロな観点から、教科間の関連や、校種間の接続が重視される。教科をこえる汎用的な能力や、日常生活の事象や地域の課題は、必ずしも特定の教科等に限定されるものではなく、学際的な性格を持ちうる。また、個々の子どもの生涯にわたる人生全体からは、小・中・高と校種相互の関連性を教員自身も意識しながら、当該子どもにとって意味ある教育活動を構想していくことも必要であろう。

このように、これからの各学校の教員にとっては、全体鳥瞰図としてのカリキュラムをデザインできるカリキュラム開発力を高めることが、これからの時代の要請でもある。

本研究を進めるに際して、三陸復興・地域創生を基盤に、町行政全体のビジョンのもとに町内の全幼小中高の教育機関において進められている、岩手県住田町の「地域創造学」を中心とした教育課程改革の取り組みを参考にした。同町の新教科「地域創造学」を中心とした町内全5校の小中高接続カリキュラムは、平成29年度から4年間の文部科学省研究開発学校指定を受け、令和元年11月29日には「新設教科『地域創造学』における社会的実践力の育成 ～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～」を研究主題に第3年次学校公開研究会が開催された。本研究執筆に関わった教員および教職大学院全生が授業公開・研究協議等に参加し、本研究を進める際の参考とした。そして本研究は、同町の研究開発指定学校のカリキュラムをさらに発展させたカリキュラムデザインとして構想提起するものである。

以上のような背景を有しつつ、本研究では、マクロな観点からのカリキュラムの全体像を開発する力の育成を目指し、ある程度の具体性を伴った提案とするために、特に以下の条件を付した。

①少子高齢化による人口減少と、それに拍車をかけることとなった東日本大震災の復興創生という岩手の地域特性を考慮し、中山間地域の学校を想定すること。

②校種を超えて、個々の子どもの成長発達の全体を見通しながら教育活動に取り組むことを考慮し、小中高一貫の教育カリキュラムを開発すること。

③岩手の教育課題に照らして、4つの具体的テーマに即してカリキュラム開発すること。特に、本研究では、院生と協議した結果、具体的に総合的学習、特別支援教育、算数・数学、外国語の4テーマとした。

以上の条件を踏まえ、本稿では総合的学習、特別支援教育の二つのテーマについて、育みたい

「資質・能力」と単元内容の系統的発展を念頭に置いた全体計画案、年間指導計画案等のモデルカリキュラムを提示するものである。

もちろん、それらのモデルカリキュラムは、あくまで一つの提案であって、絶対不変な計画案ではありえない。本研究で提示するモデルカリキュラムは、現実の子どもたちを念頭に、各学校において実践されるなかで、常に修正・改善に努め続けることが必要である。

また、本研究で提示するモデルカリキュラムの成果は、安易に評価できるものではなく、ある程度の期間における各学校での実践活用を通じて、その有効性や正当性が検証されていくと考える。

本研究は、これからの学校教員に求められる、子どもに即したカリキュラム開発力育成の出発点として位置づけられるものである。

（文責：田代高章）

第2章 研究の方法

カリキュラム開発にあたり、「総合的な学習の時間（地域創造学）」「特別支援教育」「算数・数学」「外国語」の4つのテーマを設定した。また、多様な見方・考え方で協議しながらカリキュラム開発ができるようにするため、学卒院生と現職院生を混合にし、多種の校種からなるグループを編成した。そして、前期科目「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」と後期科目「学習指導要領とカリキュラム開発」の授業の一環として、下記の調査を行い、岩手県の中山間地域における状況を把握しながら、校種間接続カリキュラム（小・中・高）の開発を行った。

2019年 6月3日	岩手県教育委員会から指導主事を招聘し、「キャリア教育」「学力向上」「豊かな心（道徳教育・生徒指導）」「特別支援教育」の各テーマについてインタビュー調査を実施した。
7月29日	上記の4つのテーマでのカリキュラム開発の最終発表検討会に岩手県教育委員会から指導主事を招き、改善点について助言を受けた。 ※作成したカリキュラムについては、事前に県教育委員会の各担当指導主事に送付し、評価（良かった点と改善点）を受けた。
11月29日	住田町で開催された文部科学省研究開発学校指定第3年次学校公開研究会に参加した。世田米小・中学校及び住田高校における公開授業を参観し、中山間地域における小・中・高等学校の接続を活かした、「地域創造学」を柱とする一貫教育の現状について調査した。
2020年 1月28日	校種間接続カリキュラム（小・中・高）の開発の最終報告会に、住田町における研究開発にあたっている住田町教育委員会の指導主事を招聘し、作成したカリキュラムについて評価を受けた。

（文責 菅野 弘）

第3章 小中高一貫モデルカリキュラムの提案

1 総合的学習について

(1) 総合的な学習の時間における中山間地域を踏まえた現状把握

学習指導要領では、総合的な学習の課題と更なる期待として以下の点があげられた¹⁾。

- ・総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明かにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められる。
- ・探究のプロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が十分でないという課題がある。探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。

さらにいわて県民計画の教育分野において、「① 知育-ア、時代に求められる児童生徒の資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの充実や、幼児教育から高校までの連携した円滑な接続に向けた取組を着実に推進します。」「② 徳育-ア、家庭や地域との連携による道德教育の推進などにより、自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重する心を育成します。」「⑥ 児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上を進めます-エ、学校の魅力を高めるよう、より良い教育環境を整備するとともに、地域社会や地域の産業界などと交流・連携を進めます。」と示された²⁾。岩手県の中山間地域は県土の8割を占め、自然環境や伝統文化の継承など多くの機能を有しているが、人口減少を受け、学校の統廃合が進んでいる現状がある。

長野県教育委員会の中山間地域における学びの調査によると、中山間地域における学びの可能性は、一人ひとりへのきめ細かな指導が可能であり、自然などの資源、異年齢での学びが期待されると

しつつ、様々な考えに出会う機会や集団で行う活動で学び合う機会が少なく、人間関係の固定化、教員の専門性不足の課題をあげ、学校と地域経営の一体化、学校の地域の学びの拠点化、推進人材の確保、子どもに加え、教員、親、地域住民も地域の良さを知る必要があるとこれからの関わり方を示している³⁾。

そこで本研究では、小・中・高12年間を通じた校種間の接続と学びのプロセス、各教科との関連の視点から全体計画、探究プロセスの系統表、単元配列表、各教科との関連表の作成を試みた。

(2) カリキュラム開発の視点

学習指導要領解説総合的な学習の時間編では、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の探究のプロセスを一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できること、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動コンピュータ等を利用し情報を収集・整理・発信する学習活動行い、自然体験やボランティア活動などの体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れることを重視した⁴⁾。よって本研究でも上記事項に留意して目標を設定し、校種間の接続が円滑に進むよう、住田町教育委員会が中心となり実践している「地域創造学」を参考に計画を作成した⁵⁾。

ステージ分けについては、3-2-3-3-2年の5つのステージを構想した。これにより児童生徒の校種間の接続を円滑にし、ステージ内の異年齢による協同などの学び合い、自分自身の学習の成果等に関わるメタ認知などが適切に位置づけられる。また教職員の意識も、自分の校種や担当学年の指導に終始するのではなく、指導する側の意識改革が図られ、子どもの学びの連続性や深化を視座においた学習活動の在り方に目を向けながら進めることができると期待されている。

全体計画は、目指す子ども像を、社会的実践力が身に付いた子どもの姿と位置づけ作成した。本

研究では社会的実践力を地域理解・社会参画に関する力・人間関係形成に関する力・自律的活動に関する力の4つの資質・能力として捉えている。学習内容、学習活動、学習評価、各教科等の関連、指導方法、指導体制、地域・校種間等との連携を連動させながら教育活動を進めることで、これらの資質・能力を身に付けさせたいと考えた。

探究のプロセスの系統表の作成の視点は、次の2つである。1つ目は、地域をより効果的に活用するために、「課題の設定」の段階で学習材を系統的に扱った点である。2つ目は、児童生徒の目的意識・相手意識を高めたり、校種間による重なりなどをなくしたりするために、「まとめ・表現」の段階で、目的と相手を明確にした点である。なお、縦軸には、学年・校種間における地域理解の具体を記し、横軸には、総合的な学習の時間の探究のプロセスである「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の4つを記した。単元配列表については、以下の点に考慮し作成した。探究的な見方・考え方を働かせながら学ぶ問題解決型の学習過程の質を高める点である。主体的・対話的で深い学びの実現につながる展開が大切になるため、発達段階を踏まえた学びのステージに適した体験学習を効果的に位置づけ、探究的な見方・考え方を繰り返す点を組み込んだ単元構成にした。よって、各ステージの学習内容や学習方法、児童生徒の資質・能力の系統性を考慮することで目標を達成できると考える。

各教科との関連については、総合的な学習の時間を核とした学習内容と各教科等の関連を重視するために、校種や各学校の実態に対応できるように、異なる3つの視点から一覧表を作成した。1つ目は関連教科の学習内容を示したもの、2つ目は探究のプロセスを視点としたもの、3つ目は資質・能力を視点としたものである。校種の特徴や各学校のねらいに即して選択することで、効果的に活用できると考える。

（3）全体カリキュラムの提案

以下、図表1～図表6において、総合的な学習に関するカリキュラムの全体計画案を提案する。

図表 1

全体計画

【社会的実践力が身に付いた子どもの姿】

①体験活動を通じて、地域づくりを主体的に目指す態度
 ②他と協働するために積極的にコミュニケーションを図る態度
 ③郷土を愛し、持続可能な社会を創造しようとする態度

<p>【児童生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で思いやりがあり前向き ・競争心に欠け、物事をあきらめる傾向がある ・真面目だが、主体性に欠ける面が見られる 	<p>【全体目標】</p> <p>地域をフィールドとした横断的で探究的な学習活動を意図的・計画的に行うことを通じて、新しい時代を切り拓き、社会を創造していくための社会的実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">【 学年・校種間目標 】</p> <p style="text-align: center;">《高等学校》</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方や地域の発展を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくために、下記の資質・能力を育成することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">《中学校》</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方や地域社会について考えていくために、下記の資質・能力を育成することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">《小学校第3～6学年》</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方や地域社会について考えていくための素地として、下記の資質・能力を育成することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">《小学校第1、2学年》</p> <p>活動や体験を通して、身近な生活や地域に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくために、下記の資質・能力を育成することを目指す。</p>	<p>【保護者の願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明朗で優しい人になってほしい ・目標に向かって頑張っている人になってほしい ・誰とでも協力して行動できる人になってほしい
<p>【地域の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部地域 ・自然が豊か ・団結力がある ・教育に協力的 ・少子高齢化 ・人口流出に課題 		<p>【地域の願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢をかなえてほしい ・地域に誇りをもってほしい ・地域に積極的に関わってほしい

【育成を目指す具体的資質・能力】	
社会的実践力	児童生徒が変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心を持ち、主体的に未来社会を創造していくことができる資質・能力
A 地域理解	自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える
B 社会参画に関する力	「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力
C 人間関係形成に関する力	学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力
D 自律的活動に関する力	自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進する関わる資質・能力

<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や地域の実態、保護者や地域の願いを踏まえた探究課題を設定していく。 ・12年間を見通した学習活動を行っていく。 ・ひと・もの・ことの地域を中心とした教育資源を効果的に活用する。 ・目的や相手を意識した学習成果を発表する場を計画的に設定する。 	<p>【学習内容：単元名例】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>高等学校第3学年</td><td>自分と地域の未来を見つめよう</td></tr> <tr><td>高等学校第2学年</td><td>地域の発展を考える</td></tr> <tr><td>高等学校第1学年</td><td>地域産業発展計画</td></tr> <tr><td>中学校第3学年</td><td>地域貢献計画を発信しよう</td></tr> <tr><td>中学校第2学年</td><td>地域の現状を知らう② ～地域の産業～</td></tr> <tr><td>中学校第1学年</td><td>地域の現状を知らう① ～地域の暮らし、防災～</td></tr> <tr><td>小学校第6学年</td><td>地域の特産物を調べよう ； 地域の自慢を伝えよう</td></tr> <tr><td>小学校第5学年</td><td>〇〇町自慢の郷土料理 ； 地域の環境を考えよう</td></tr> <tr><td>小学校第4学年</td><td>郷土芸能を調べよう ； 〇〇町博士になろう</td></tr> <tr><td>小学校第3学年</td><td>地域の福祉を考えよう ； 地域の危険を調べよう</td></tr> <tr><td>小学校第2学年</td><td>地域の自然を調べよう ； 地域の施設・商店調べ</td></tr> <tr><td>小学校第1学年</td><td>学校を知らう ； 自然を感じよう</td></tr> </table>	高等学校第3学年	自分と地域の未来を見つめよう	高等学校第2学年	地域の発展を考える	高等学校第1学年	地域産業発展計画	中学校第3学年	地域貢献計画を発信しよう	中学校第2学年	地域の現状を知らう② ～地域の産業～	中学校第1学年	地域の現状を知らう① ～地域の暮らし、防災～	小学校第6学年	地域の特産物を調べよう ； 地域の自慢を伝えよう	小学校第5学年	〇〇町自慢の郷土料理 ； 地域の環境を考えよう	小学校第4学年	郷土芸能を調べよう ； 〇〇町博士になろう	小学校第3学年	地域の福祉を考えよう ； 地域の危険を調べよう	小学校第2学年	地域の自然を調べよう ； 地域の施設・商店調べ	小学校第1学年	学校を知らう ； 自然を感じよう	<p>【学習評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年間・校種間でポートフォリオを活用し、評価の充実を図る。 ・資質・能力系統表を作成し、それをもとに計画的・系統的な評価を行う。 ・ルーブリックを活用し、評価の工夫を図る。 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・定期的に指導計画を評価・改善し、計画に活かす。
高等学校第3学年	自分と地域の未来を見つめよう																									
高等学校第2学年	地域の発展を考える																									
高等学校第1学年	地域産業発展計画																									
中学校第3学年	地域貢献計画を発信しよう																									
中学校第2学年	地域の現状を知らう② ～地域の産業～																									
中学校第1学年	地域の現状を知らう① ～地域の暮らし、防災～																									
小学校第6学年	地域の特産物を調べよう ； 地域の自慢を伝えよう																									
小学校第5学年	〇〇町自慢の郷土料理 ； 地域の環境を考えよう																									
小学校第4学年	郷土芸能を調べよう ； 〇〇町博士になろう																									
小学校第3学年	地域の福祉を考えよう ； 地域の危険を調べよう																									
小学校第2学年	地域の自然を調べよう ； 地域の施設・商店調べ																									
小学校第1学年	学校を知らう ； 自然を感じよう																									
<p>【各教科等との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力や探究プロセス等、視点を明確にして関連を図る。 ・各教科等との関連の一覧表を作成し、計画的に連動を図る。 	<p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体性を発揮できるように、支援の工夫を図る。 ・児童生徒同士や地域との協働的な学習を重視した指導・支援を行う。 	<p>【指導体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校指導体制を組織し、校内コーディネーターを配置し、地域や校種間等との連携を図る。 ・地域コーディネーターを配置する。 ・地域や校種間等のコーディネーター会議を開催する。 																								
<p>【地域や校種間等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設・商店 ・福祉施設 ・防災施設 ・郷土芸能保存会 ・婦人会 ・地域行政関係者 ・地元企業 ・地元産業関係者 ・近隣小学校 ・進学先中学校 ・地域の高等学校 ・他地域の小規模高等学校 など 																										

図表 2

探究のプロセス系統表

学年	資質・能力		単元名例	課題の設定 (思いや願いをもつ)		情報の収集 (活動を体験する)		整理・分析 (感じる・考える)		まとめ・表現 (表現する・行為する)			
	地域理解	資質・能力の重点		学習材	導入例	相手例	方法例	技法例	方法例	相手例	目的	方法例	
高3	↑ 地域発展	☆創出する力 ★自己肯定感	自分と地域の未来を 見つめよう	自己啓発 地域全般	○体 ○講 ○動 ○活 ○イ ○ン ○タ ○体 ○験 ○起 ○想 ○起 ○K ○J ○法 ○提 ○示 ○手 ○法 ○V ○T ○R ○ウ ○エ ○ビ ○ン ○グ ○ラ ○フ ○提 ○示 ○な ○ど	既習成果物 地域行政	資料調査 就職説明会 講話	○見 ○関 ○順 ○通 ○連 ○序 ○付 ○け ○る ○具 ○体 ○化 ○多 ○面 ○化 ○的 ○考 ○え ○る ○多 ○角 ○的 ○考 ○え ○る ○相 ○違 ○点 ○等 ○の 構 造 化 す る 付 け る 推 論 す る	○座 ○カ ○ド ○の 利 用 ○ベ ○グ ○ラ ○フ ○の 利 用 ○ラ ○マ ○ッ ○キ ○ン ○グ ○の 利 用 ○付 ○け ○図 ○表 ○の 利 用 ○な ○ど	県外生徒 県内生徒	自分と地域の 未来を伝える	○パ ○ン ○フ ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	○ポ ○ス ○タ ○ー ○セ ○ッ ○シ ○ョ ○ン ○ガ ○イ ○ド ○ブ ○ッ ○ク ○な ○ど
高2		☆見通す力 ☆提案・発信する力	地域の発展を考える	地域全般		地域住民 地元企業 地域行政	インターン 資料調査 講話			○具 ○体 ○化 ○的 ○考 ○え ○る	小規模校 地域行政	地域の問題 や解決方法 などを伝える	○動 ○画 ○レ ○ゼ ○ン ○デ ○ィ ○ス ○カ ○シ ○ョ ○ン ○な ○ど
高1		☆伝え合う力 ★好奇心・探究心	地域産業発展計画	地域産業		小中学生 地域住民	小中交流 資料調査 インタビュー			○具 ○体 ○化 ○的 ○考 ○え ○る	学年生徒 学校職員	地域産業の 現状を伝える	○ス ○ラ ○イ ○ズ ○シ ○ョ ○ン ○な ○ど
中3	↑ 地域貢献	☆提案・発信する力 ☆協働する力	地域貢献計画を 発信しよう	地域全般	地域住民 地域行政	手紙 インタビュー 資料調査	○多 ○角 ○的 ○考 ○え ○る ○相 ○違 ○点 ○等 ○の 構 造 化 す る 付 け る 推 論 す る	○ベ ○グ ○ラ ○フ ○の 利 用 ○ラ ○マ ○ッ ○キ ○ン ○グ ○の 利 用 ○付 ○け ○図 ○表 ○の 利 用 ○な ○ど	地域住民 高校生 地域行政	テーマに基 づく地域貢献 の方法を伝える	○ガ ○イ ○ド ○ブ ○ッ ○ク ○な ○ど		
中2		☆多面的・多角的 ☆創出する力	地域の現状を知ろう② ～地域の産業～	地域産業	地域住民 地元企業	手紙 インタビュー 職場体験			○多 ○角 ○的 ○考 ○え ○る	地域住民 企業職員	地域産業の 魅力と課題を 伝える	○ガ ○イ ○ド ○ブ ○ッ ○ク ○な ○ど	
中1		☆感じ取る力 ★困難を解決する力	地域の現状を知ろう① ～地域の暮らし、防災～	地域生活 地域防災	地域住民 市・町職員 消防職員	手紙 インタビュー 講話			○多 ○角 ○的 ○考 ○え ○る	地域住民 市・町職員	地域の暮らし の魅力と課題 を伝える	○ガ ○イ ○ド ○ブ ○ッ ○ク ○な ○ど	
小6	↑ 地域愛着・ 地域把握	☆多面的・多角的 ☆伝え合う力	地域の特産物を調べよう 地域の自慢を伝えよう	特産物 地域全般	地域住民 既習成果物 市・町職員	見学 インタビュー 資料調査	○工 ○夫 ○す ○る ○見 ○通 ○す ○試 ○す ○た ○と え ○る ○比 ○べ ○る ○見 ○付 ○け ○る ○気 ○付 ○く	○ラ ○マ ○ッ ○キ ○ン ○グ ○の 利 用 ○付 ○け ○図 ○表 ○の 利 用 ○な ○ど	高校生 地域住民 市・町職員	特産物などの 地域のよさを 伝える	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	○新 ○聞 ○日 ○記 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	
小5		☆提案・発信する力 ☆協働する力	○町自慢の郷土料理 地域の環境を考えよう	郷土料理 地域環境	地域住民 第一次産業 市・町職員	インタビュー 講話 実習・体験			○分 ○類 ○す ○る	地域住民 他校児童	郷土料理、地 域の環境に ついて伝える	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	
小4		☆協働する力 ★他者受容	郷土芸能を調べよう ○町博士になろう	芸能・祭り 郷土歴史	地域住民 芸能保存会	体験 インタビュー 講話			○分 ○類 ○す ○る	地域住民	地域の芸能・ 歴史につい て伝える	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	
小3		☆見通す力 ★他者受容	地域の福祉を考えよう 地域の危険を見つけよう	福祉施設 防災施設	施設関係者 警察関係者	体験 見学 インタビュー			○分 ○類 ○す ○る	友だち 家族 地域住民	地域の福祉 施設のよさを 伝える	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	
小2		☆提案・発信する力 ★好奇心・探究心	地域の自然を調べよう 地域の施設・商店調べ	地域自然 施設・商店	地域の自然 施設関係者 商店関係者	体験 見学 インタビュー			○工 ○夫 ○す ○る ○見 ○通 ○す ○試 ○す ○た ○と え ○る ○比 ○べ ○る ○見 ○付 ○け ○る ○気 ○付 ○く	友だち 家族 地域住民	地域の自然、 施設・商店の よさを伝える	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど	
小1	☆感じ取る力 ★自己肯定感	学校を知ろう 自然を感じよう	学校 自然	学校教職員 地域の自然	体験 インタビュー	○工 ○夫 ○す ○る ○見 ○通 ○す ○試 ○す ○た ○と え ○る ○比 ○べ ○る ○見 ○付 ○け ○る ○気 ○付 ○く	友だち 家族 先生	地域の自然 の様子を伝え る	○活 ○動 ○報 ○告 ○レ ○ッ ○ト ○意 ○見 ○文 ○な ○ど				

岩手中山間地域の教育課題に応じた小中高一貫のモデルカリキュラム (その1) 19

図表 3

12年間の単元配列表

教科	学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
第1ステージ	生活科	1学年	学校をたんけんしよう(8) (学校を知ろう)	学校をたんけんしよう(10) (学校を知ろう)	夏をみつけよう(8) (自然を感じよう)	秋をみつけよう(14) (自然を感じよう)	秋のおもちゃで楽しもう (10) (自然を感じよう)	冬をみつけよう(13) (自然を感じよう)	冬を楽しもう(10) (自然を感じよう)	もうすぐ2年生(10) (学校を知ろう)					
		2学年	春をみつけよう(8) (自然を感じよう)	生きものなかよし大作戦(8) (自然を感じよう)	植物をそだてよう(7) (自然を感じよう)										
	総合的な学習の時間	3学年	1年生を思い出よう(9) (学校を知ろう)	どきどきたんけん(18) (地域の施設・商店調べ)	夏をさがそう(11) (地域の自然を調べよう)	秋をさがそう(14) (地域の自然を調べよう)	もつとなかよしたんけん(18) (地域の施設・商店調べ)	秋をみんなにおしえよう(7) (地域の自然を調べよう)	まちのすてきをつたえよう(10) (地域の施設・商店調べ)	大きくなった自分をふりかえろう(12)					
		4学年													
第2ステージ	総合的な学習の時間	3学年	地域の危険を見つつけよう(20)			地域の福祉を調べよう(20)			バリアフリーについて考えよう(10)						
		4学年	情報活用能力(5)			地域に発信しよう(10)			プログラミング教育(5)						
	総合的な学習の時間	5学年	〇〇町博士になろう(20)			郷土芸能を調べよう(20)			世界の国々について調べよう(10)						
		6学年	情報活用能力(5)			地域に発信しよう(10)			プログラミング(5)						
第3ステージ	総合的な学習の時間	5学年	地域の環境を考えよう(20)			〇〇町自慢の郷土料理(20)			世界環境について調べよう(10)						
		6学年	自治体学習(5)			地域に発信しよう(10)			情報活用/プログラミング(5)						
	総合的な学習の時間	7学年	地域の特産物を調べよう(20)			地域の自慢を伝えよう(20)			〇〇ハローワーク(10)						
		8学年	東北を学ぼう(5)			地域に発信しよう(10)			プログラミング(5)						
中学校	1学年	伝統の継承(2)	地域学習①(8)	被災地学習(5)	地域学習②(5)	自然体験(6)	防災学習(8)	地域学習③(5)	伝統の継承(2)	地域学習の発展(8)	伝統の継承(7)				
	2学年	係小連携(3)						係小連携(9)							
第4ステージ	総合的な学習の時間	2学年	地域学習④(5)	地域の産業①(8)	職場体験学習(4)	被災地学習(5)	地域学習⑤(4)	職場体験学習(14)	地域学習⑥(5)	伝統の継承(2)	地域の産業②(8)	地域学習の発展④(4)	地域産業の発展(8)	自然体験(14) 次年度にむけて(4)	
		3学年	東京と地域の比較(14)	伝統継承活動(8)	ふるさと貢献計画作成・発表(44)			外国の文化でふれあおう(10)			卒業プロジェクト(5)			夢を語ろう(10)	
	総合的な学習の時間	4学年	地域を知る(6)			探究テーマの選択(3)			地域文化選択講座(4)			調査計画・調査活動・探究の振り返り(8)			発表・まとめと振り返り(4)
		5学年	高校生活を考える(2)						文化祭・発表(4)			大学・企業訪問(2)			先輩と語る会(2)
第5ステージ	総合的な学習の時間	2学年	地域の発展を考える・課題発見(3)			探究テーマの選択(2)			地域文化選択講座(4)			実践・検証・中間のまとめ(5)			発表・まとめと振り返り(3)
		3学年	インターンシップ準備・企業見学(4)			インターンシップ(4)			文化祭・発表(4)			大学・企業訪問(2)			先輩と語る会(2)
	総合的な学習の時間	4学年	自分と地域の未来をみつめる・課題発見(3)			探究テーマの選択(2)			地域への貢献を考える・検証・考察・今後の課題(6)			発表・まとめと振り返り(2)			
		5学年	進路学習・ジョブカフェセミナー(10)						文化祭・発表(4)			進路学習の振り返り(8)			先輩と語る会(2)

図表 4

学習内容を視点とした教科等との関連一覧表例(小学校第5学年)

単元	教科	主な関連教科等の学習内容(目標・ねらいや、学習活動・学習内容等をもとに記載する)
地域の環境を考えよう	国語	<p>《新聞を読もう》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成の一つとして、新聞記事のもつ構成に気付くことができる。 《きいて、きいて、きいてみよう》 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。 ○収集した知識や情報を関連付け、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。 《次への一歩 ―活動報告書》 ○文章全体の構成の効果を考え、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、表現の効果などについて工夫することができる。 《明日をつくるわたしたち》 ○自分たちの身の回りにおける問題について調、解決のための提案書を書くことができる。 《グラフや表を用いて書こう》 ○目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理するとともに、引用したり図表やグラフを用いたりするなど書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。
	社会	<p>《わたしたちの暮らしと国土》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の国土の様子や自然条件の異なる地域の様子を具体的に調べ、国土の特色や自然環境に適応して暮らしている人々の工夫や願いを捉える。 ○国土や地域の自然環境に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、自然環境と人々の生活や産業との関わりについて多面的・多角的に考える。 《国土の自然とともに生きる》 ○自分たちと国土や地域の自然環境との結び付きに気付く、森林を守り育てていくことや、自然災害を防止することの大切さ、公害から健康や生活環境を守ることの大切さを捉えさせる。 ○国土や地域の自然環境に関する記述や写真からの情報、地図や地球儀、統計などの資料を収集・選択し、自然環境と人々の生活や産業との関わりについて、広い視野から考える。
	算数	<p>《比べ方を考えよう》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○測定値の平均の意味について理解し、それを用いることができる。 ○単位置あたりの大きさの意味を理解し、単位置あたりの大きさを表したり、比べたりすることができる。 《比べ方を考えよう》 ○割合、百分率の意味と表し方を理解し、それらを用いることができる。 ○帯グラフ、円グラフの用いられる場面を知り、目的に応じて資料を帯グラフ、円グラフに表したり、帯グラフ、円グラフから特徴を読み取ったりすることができる。また、目的に応じて、表やグラフを選び、活用することができる。
	理科	<p>《台風と天気の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○台風による強風や大雨と、もたらす災害について調べたり、考えたりすることができる。 ○災害に対する備えや情報活用の重要性に気付く、自ら行動する態度を養う。 《流れる水の働き》 ○流れる水の働きや、増水による災害について調べたり、考えたりすることができる。 ○流れる水の働きによって土地の様子が大きく変化し、時に災害を引き起こす場合があること、災害に対する備えが重要であることを捉えることができる。
	音楽	
	図工	
	家庭	<p>《寒い季節を快適に》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寒い季節の住まい方に興味をもち、暖かく、明るい住まい方ができる。
	保体	<p>《けがの防止》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害によるけがの防止をするために、安全に行動することやの日頃から備えをしておくことの必要性を考えることができる。
	外国語	
	道徳	○《節度・節制》《礼儀》《生命の尊さ》《自然愛護》《感動、畏敬の念》《伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度》
特活		
〇〇町自慢の郷土料理	国語	<p>《新聞を読もう》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成の一つとして、新聞記事のもつ構成に気付くことができる。 《きいて、きいて、きいてみよう》 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどしながら考えをまとめることができる。 ○収集した知識や情報を関連付け、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。 《すいせんします》 ○考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けることができる。
	社会	<p>《食料生産を支える人々》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食料生産に関する資料を収集したり、選択・活用したりして、食料生産が自然と深い関わりがあるなどを考える。
	算数	
	理科	<p>《植物の発芽と成長》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○植物の発芽に必要な条件や、成長に必要な条件を捉えることができる。
	音楽	
	図工	
	家庭	<p>《クッキング はじめの一歩》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理をすることの良さや、調理の流れ、調理用具の使い方がわかる。 ○青菜やじゃがいものゆで方がわかり、ゆでることができる。 ○調理に必要な用具や食品を安全で衛生的に取り扱い、ゆで野菜サラダを作ることができる。 《食べて元気に》 ○ご飯とみそ汁の調理をし、食品を五大栄養素に分けたり、3つのグループに分けたりすることができる。 《いっしょにほっとタイム》 ○家族や周囲の人びとなどの集まった人たちと、楽しく過ごすことについて考えたり、工夫したりする。
	保体	
	外国語	
	道徳	○《礼儀》《自然愛護》《伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度》
特活		

図表 5

【中学校】探究のプロセスを視点とした教科等の関連一覧

例：中学校第1学年 地域の暮らしと防災

教科等 探究のプロセス	国語	社会	数学	理科	体育	音楽	美術	外国語	家庭	技術	道徳	
課題の設定	○わかりやすく説明しよう	○日本の姿 ○世界からみた日本の姿 ○日本の諸地域		○地震のゆれの伝わり方 ○地震の起こるしくみ ○地震と災害	○保健と環境	○歌い継ごう 日本の歌		外国語 科目全般	○食生活と自立 ○衣生活と生活と自立 ○身近な消費活動と環境			
情報の収集	○わかりやすく説明しよう ○好きなものを紹介しよう ○情報の集め方を知ろう ○インタビュー・アンケート ○調べたことを報告しよう	○日本の姿 ○世界からみた日本の姿 ○日本の諸地域 ○身近な地域の調査		○地震のゆれの伝わり方 ○地震の起こるしくみ ○地震と災害					○食生活と自立 ○衣生活と生活と自立 ○身近な消費活動と環境	○情報に関する技術	◎社会参画・公共の精神 ◎郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ◎自然愛護 ◎生命の尊さ ◎よりよく生きる喜び	
整理・分析	○わかりやすく説明しよう ○好きなものを紹介しよう ○情報の集め方を知ろう ○調べたことを報告しよう ○印象深く思いを伝えよう ○ポスターセッションをする	○身近な地域の調査	○正負の数の利用 ○資料の分析 ○近似値と有効数字 ○資料の活用								○情報に関する技術	
まとめ・表現	○わかりやすく説明しよう ○好きなものを紹介しよう ○私が選んだこの一冊 ○調べたことを報告しよう ○印象深く思いを伝えよう ○ポスターセッションをする	○身近な地域の調査				○楽しく伝える文字のデザイン ○私の気持ちをカードに込めて					○情報に関する技術	

図表 6

【高等学校】資質・能力を視点とした教科・領域との関連一覧表

※「-」については特に該当なし

資質・能力の分類	国語	地歴 公民	数学	理科	保健 体育	芸術 (音楽)	英語	家庭	情報	特別活動			
A. 地域理解		現代社会・政治経済 「地方自治制度と住民の権利」	-		体育 「体育理論」	-		家庭基礎 「家族・家庭と社会」		地域文化選択講座 等			
B. 社会参画に関する 資質・能力	国語科目 全般	現代社会・政治経済 「地域の実情・公正な判断力」	1 ☆見通す力	数学Ⅰ・A 「確率・統計」	理科全般 「観察実験・探究」	音楽Ⅰ 「表現・鑑賞」	コミュニケーション英語 英語表現 全般	家庭基礎 「ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動」	情報と社会 「情報とメディア」	年度論生徒会行事・ 情報モラル講座 等			
			2 ☆多面的・多角的に 考える力	数学Ⅰ・II 「論証・証明」						音楽ⅡⅢ 「表現・創作」	家庭基礎 「生活を営む・ 住まい」	進路学習・生徒総会 等	
			3 ☆提案・ 発信する力	-						-	家庭基礎 「ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動」	情報と社会 「情報モラルと 社会ルール」	進路学習・ インターンシップ 等
			4 ☆好奇心・ 探究心	現代社会・政治経済 「地方財政の現状と 地方自治の課題」						-	音楽Ⅰ 「表現・等」	家庭基礎 「高齢者の生活」 「子供の発達」	一日体験入学 等
			5 ☆困難を解決 しようとする心	-						-	音楽Ⅰ 「表現・等」	-	ボランティアガイダンス 等
C. 人間関係形成に 関する資質・ 能力	1 ☆伝え合う力	-	数学Ⅰ・II 「論証・証明」		音楽ⅠⅡⅢ 「表現・鑑賞」		家庭基礎 「ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動」	情報と社会 「表現と伝達」 プレゼンテーショ ン	海外派遣報告会 等				
	2 ☆協働する力	-	-		音楽ⅠⅡⅢ 「表現・アンサ ンブル」		家庭基礎 「生活を営む・ 消費生活」	-	生徒総会 修学旅行まとめ 等				
	3 ☆他者受容	-	-		音楽ⅠⅡⅢ 「鑑賞」		家庭基礎 「社会と福祉」	情報と社会 「情報とメディア」	生徒会活動 等				
D. 自律的 活動に 関する資質・ 能力	1 ☆感じ取る力	-	-		音楽ⅡⅢ 「鑑賞」		家庭基礎 「人の一生と 発達課題」	情報と社会 「表現と伝達」 プレゼンテーショ ン	進路学習 等				
	2 ☆創出する力	-	-		音楽ⅡⅢ「表 現・歌唱」		家庭基礎 「生活を営む・ 消費生活」	情報と社会 「情報モラルと 社会ルール」	進路学習・ インターンシップ 等				
	3 ☆自己肯定感	-	数学Ⅰ・II 「論証・証明」		音楽ⅠⅡⅢ 「表現・歌唱」		家庭基礎 「ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動」	情報と社会 「情報モラルと 社会ルール」	進路学習 等				

（4）課題について

本研究で対象とした中山間地域については、住田町教育委員会主催の研究会を基に、仮説を立て計画を立案した。その中で、中山間地域特有の児童・生徒の町への出入りや少人数で行っている授業などの実態を含め、地域特性の十分な検討ができなかった。本研究で作成した計画等がどのくらい実用可能なのかこれから検証する必要がある、複数の中山間地域の実態を比較検討する必要もある。また、身に付けたい資質・能力と各計画の関連持たせるよう作成したが、完全に網羅している内容には至らず、現場で運用する際に、児童・生徒の実態に応じて各学校、各授業者が工夫する必要がある。これらを改善するためにさらに複数の計画の立案もしていかなければならない。全体計画においても、学年・校種間の目標について学校や校種、地域の特色を生かした目標を設定するという点で課題が残った。

（文責：川原恵理子・佐藤和生・生平駆・小野寺峻一・高橋龍太郎）

2 特別支援教育について

（1）特別支援教育における現状把握

住田町は、現在、平成29～32年度の4年間「文部科学省研究開発指定」を受け、学習指導要領に依らない研究開発を行っている。その研究は、「子どもたちに新しい時代を切り拓くために必要な資質・能力や心の豊かさを育成するため、小・中・高等学校の滑らかな接続を活かし、新設の教科『地域創造学』の教育課程と、その指導及び評価方法等の在り方を研究開発」するものである。そのために、町は、「自立して生き抜く力を身に付け、他者と協働して、より豊かな人生や地域づくりを、主体的に創造することができる人材の育成」を教育理念に掲げており、風土を生かした教育の推進と自己の人生や将来にわたって持続可能な社会づくりを創造する人材育成、12年間（小・中・高等学校）かけてふさわしい資質・能力を育成する一体的な教育活動を展開している⁶⁾。また、町の理念の達成に必要な力を「社会的実践力」と位置付

けており、それを確かな「地域理解」を基盤とした「社会参画・人間関係形成・自律的活動」の4観点12項目の「資質・能力」の育成、新教科『地域創造学』を軸とした各教科等と教育課程の有機的な結び付き、地域資源を学習材とした横断的な探究のプロセスにより育んでいくと示している⁷⁾。

一方、「地域創造学」の「全体計画」や「各ステージにおける社会的実践力の系統表」、「研究報告」から、「特別支援教育」の視点を盛り込んだ内容は見られていない。文部科学省（2012）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果』では、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童の割合が6.5%、学習面だけの割合が4.5%、行動面だけの割合が3.6%、学習面と行動面における割合が1.6%であったことが報告されている⁸⁾。また、文部科学省（2014）『特別支援教育関係資料』では、「通常の学級における通級による指導」を受ける児童の割合は、平成16年比で2.3倍に増加、特別支援学級の現状として、学級数や在籍数が、約2倍以上に増加していること（平成26年5月1日現在）⁹⁾が報告されており、障がいへの理解や配慮を必要とする児童（生徒）への支援の充実の必要性が進んだことが伺える。こうした傾向は、岩手県でも例外ではなく、岩手県教育委員会（2020）『岩手の特別支援教育』（岩手県特別支援教育資料）の「特別支援学校及び小学校・中学校・義務教育学校特別支援学級・通級指導教室の幼児児童生徒数の推移」でも、その増加傾向が報告されている¹⁰⁾。こうした現状から、学習指導要領に依らない研究指定ではあるものの、「共生社会」や「インクルーシブな教育」の充実・実現は、求められている現代的な課題であり、こうした教育的ニーズへの対応は、全ての学校教育に取り入れられるべき視点である。新学習指導要領総則「第4節 児童の発達支援」にも、「特別な配慮を必要とする児童（生徒）への指導」の項が設けられ、「一人一人の確かな児童（生徒）理解を基盤に、発達や教育活動の特性を踏まえながら、それに応じた適切な指導、

支援を行うこと、きめ細やかな指導、支援を組織的・継続的に行いながら、一人一人の自己実現を図ること」等、教育の不易が明示されている¹¹⁾。また、『いわて特別支援教育推進プラン～「共に学び、共に育つ教育」の推進』（2019）でも、「つなぐ・いかす・支える」の3つをキーワードに、「すべての人が互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することのできる地域づくり」や「共生社会」を実現する施策を打ち出している¹²⁾。特別支援教育は、「教育の原点」であり、個別への配慮は、全体への配慮にも通じる。このことから、『地域創造学』に「特別支援教育（特別な配慮を必要とする児童（生徒）への指導）」（以下、「特別支援教育」と表記）の視点を加え編成することは、必要不可欠であると言える。

（2）「特別支援教育」のカリキュラム開発の視点

そこで、カリキュラム開発の目的を「『地域創造学』に、特別支援教育の視点を取り入れた、「特別支援教育全体計画」（図表7）、「『地域創造学』の単元配列表〔特別支援（学級）版〕」（図表8）、「特別な支援を必要とする児童・生徒のためのポートフォリオ評価（SUMITA PASSPORT:教師用）」（図表9）を提案し、『地域創造学』の研究の質の向上に役立ててもらおうこと」とする。

特別支援教育の視点を取り入れ、教育の質の向上を図ることは、一人一人の児童生徒の「資質・能力」の確かな育成、「自己の人生を切り拓く豊かな育ち、社会・地域づくりを創造できる人材育成」という町の教育理念の達成につながるものと考えている。また、研究『地域創造学』の充実、岩手県や日本全国の中山間地域の教育活動の発展・充実に貴重な示唆を与えるものになると期待される。

（3）全体カリキュラムの提案

「特別支援教育全体計画」の工夫4点を説明する。

①町で共有、一体化している「めざす資質・能力」を中心軸に、共通の「探究プロセス」と岩手県が示す「特別教育推進の重点『つなぐ・いかす・

支える』」を螺旋構造で位置付けた。3つが体系的、一体的に関連しながら相乗効果的に高まっていくことをイメージした。県の「特別支援教育の重点」を加えた『地域創造学』とすることで、一人一人の育ちを支える教育活動を行いながら、「岩手の未来を担う人材育成」を図っていくことが明確になる。この「人材育成」の視点は、県が推進する「復興教育」の視点とも合致するものと考えている。県の教育理念の含意を明らかに示すため、「いわて県民計画」、「岩手県教育振興計画」を反映している¹³⁾。

②『地域創造学』の教科等の枠に、知的障がい教育における「合わせた指導」と「自立活動」を配置した。これにより、「合わせた指導」と「自立活動」の目的が明確になり、目指す資質・能力の育成を意識した学習活動の展開や指導、きめ細やかな配慮や支援、評価とその見取りが可能になる。

③『地域創造学』の中心的活動である「交流活動」、「体験活動」に「ステージ間、異校種間、学校間連携のつながり」を明文化した。「交流活動」、「体験活動」を有機的かつ効果的に結び付けることで、異年齢からの模範に学ぶ、他校の同学年から学ぶことを意図している。他者の価値観から学びを広げ深めることは、教育活動の質の向上と子どもたち一人一人の確かな成長へとつながる。また、その質をさらに高め保証するために、「家庭・地域の支援欄」に「実践的、実際の豊かな学び」と、それを支える「人的・物的資源（学習材）への理解・協力」を位置付けた。質の高い実践的な学びは、社会で生きて働く貴重な実践知・経験知となる。

④12年間を5つのライフステージに整理することで、異校種間の滑らかな接続を図っているが、校種間の物理的な距離を埋めることは難しい。そこで、「特別支援教育」で共有化を図りたい5つの観点を設け、各校種でその指導・支援の充実を図ること、校種を越えて共通の指導・支援を貫き、連続、継続した指導・支援を行っていくことを位置付けた。5つの観点は、A「イ

ンクルーシブな教育、ユニバーサルデザイン、校内の支援体制」、B「個に応じた指導・支援（個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成）、家庭との連携・情報共有」、C「相談支援（教育相談、就学相談、専門機関との連携）・研修」、D「就学支援・切れ目のない支援（SUMITA PASSPORT）・評価」、E「キャリア教育」である。

Aについて、校種間を越えて、共有化された教育・教室環境の整備は、児童生徒の混乱を未然に防止し、安心した学級運営や授業展開につながる。作成については、岩手県立総合教育センターHPにある「『校内資源を活用した校内支援実践事例集』（教育支援特別室）」を活用し¹⁴⁾、必要なものを選択の上、「住田町のスタンダード」として作成することも可能であろう。B、Cについては、町で統一した様式のもと、現在、各校で行われている内容を継続実施し、その充実を図ることを想定している。Dについては、「特別な支援を必要とする児童生徒のためのポートフォリオ評価（SUMITA PASSPORT：教師用）」で詳細を述べるが、特別支援学級に在籍する児童生徒の「目指す資質・能力」に関する評価、記録を継続的に行っていくものである。C、Dについては、「関係機関との連携」の項目欄がポイントとなる。特に、「特別支援教育コーディネーター」は、「キーパーソン」であり、その働きと担う役割が期待される。Eについては、「校種に合わせた家庭・地域の支援（キャリア教育の視点）」の項目欄と深く関連性をもつ。各校種でどのような社会経験を積みませながら、キャリアの力量形成を図るのか、「主な活動と必要とされる力」を明記している。将来の出口「就職」までを支える系統性の明記により、学習や体験の経過の把握や校種を越えたきめ細かな配慮、支援が可能になる。

単元配列表における「交流学习単元」は実線、「特別支援 単独単元」は二重線で示している。ここで言う「交流学习単元」とは、通常の学級と一緒

に行う学習であり、「特別支援学級 単独単元」とは、特別支援学級オリジナル単元でかつ独自のものである。「地域創造学年間単元配列表」工夫の視点は、以下の5点である。

- ①地域創造学の目標を基に計画された単元は、「○○しよう」と生活に結び付いたテーマ性のあるものである。教科等を合わせた指導を中心とする知的障がい教育と共通し、特別な支援を必要とする児童生徒に十分参加可能な単元である。そこで、既存の単元を交流学习単元とし、特別支援として必要と考える単元を加えて年間単元配列表を作成した。
- ②ステージ毎に、発達段階を考慮した特別支援の視点を設けた。第1ステージでは、環境が変化する不安や戸惑いが予想されるため、自己を中心とした。第2ステージでは、身近な人や物に関わりながら学ぶなど自己から周囲を意識している。第3ステージにおいては、集団から地域へ目を向け、第4ステージでは地域との関わり、第5ステージでは社会との関わりを意識した視点としている。
- ③交流学习単元では、個別の指導計画や支援計画を基に、テーマに沿って学習することが望ましい。その際、一人一人の意欲、目的意識、課題意識を教師がテーマに向けてつなげていくように配慮する必要がある。また、学習活動において、一人一人の興味・関心、理解や技能、あるいは個性・特性を踏まえ、良さや「できる力」を発揮できるように支援する必要がある。よって、単元のねらいと手立ては個別化する。加えて指導者の共通性、一貫性が求められる。
- ④特別支援の単独単元においては、地域との関わりを意識的に作ることによって、地域との日常的な関わりとなるようにしたい。地域への発信によって、地域理解を深め、学校として貢献できるようにしたい。特に、地域の特性や資源を生かし、時代やニーズに合ったものを単元として設定（交流農作業、住田の木で作ろう等）している。また、この単元では、発達段階や経験等実態の個人差も考えられるので、繰り返し継

続して取り組める単元が望ましいと考える。

- ⑤中・高校においては、進路を意識し、地域の福祉事業所や企業と連携し、産業現場等における実習や就業体験等を実施する。互いに理解を深め、地域で生活することにつなげたいと考える。

特別な支援を必要とする児童生徒のためのポートフォリオ評価（SUMITA PASSPORT：教師用）は、文部科学省の「キャリア・パスポート」の考え方を参考に作成を試みた。キャリア教育において、学習や活動の内容を記録し振り返ることは、教師、児童生徒両者にとって意義がある。文部科学省（2019）によると『「キャリア・パスポート」は、児童・生徒が、自身のキャリアについて、学習状況やキャリア形成までの道筋を見通したり、振り返ったりしながら、自己の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（個人評価ツール）のこと』とある¹⁵⁾。目的は、「教師が、その記述を基に児童・生徒と対話的にかわることによって、その成長を促し、系統的な指導に資すること」が挙げられる。「キャリア・パスポート」と「SUMITA PASSPORT」の差異は記入者にある。前者は児童生徒自身が記入するのに対し、後者は教師が記入を行うものと考えている。これは、「指導の改善に資する」という教師側の評価の視点に立ったことによる。「SUMITA PASSPORT」の実施により、特別な支援を必要とする児童生徒一人一人に『地域創造学』がめざす「社会的実践力」のうち、どの資質・能力に強みがあり、課題があるかを一目で把握することが可能になる。また、「SUMITA PASSPORT」は幼小中高を貫いた1枚のシートで記入できるようにしているため、ステージ間・校種間をつなぐ指導・支援、評価の連続性が担保される。つまり、社会的実践力の育成に必要な資質・能力を系統的、連続的に評価することができるのである。また、児童生徒の成長を促進し、一人一人の特性やニーズに応じた教育活動が展開できると考える。以下、工夫や活用の仕方について説明する。

- ①「SUMITA PASSPORT」では、町が示す4観

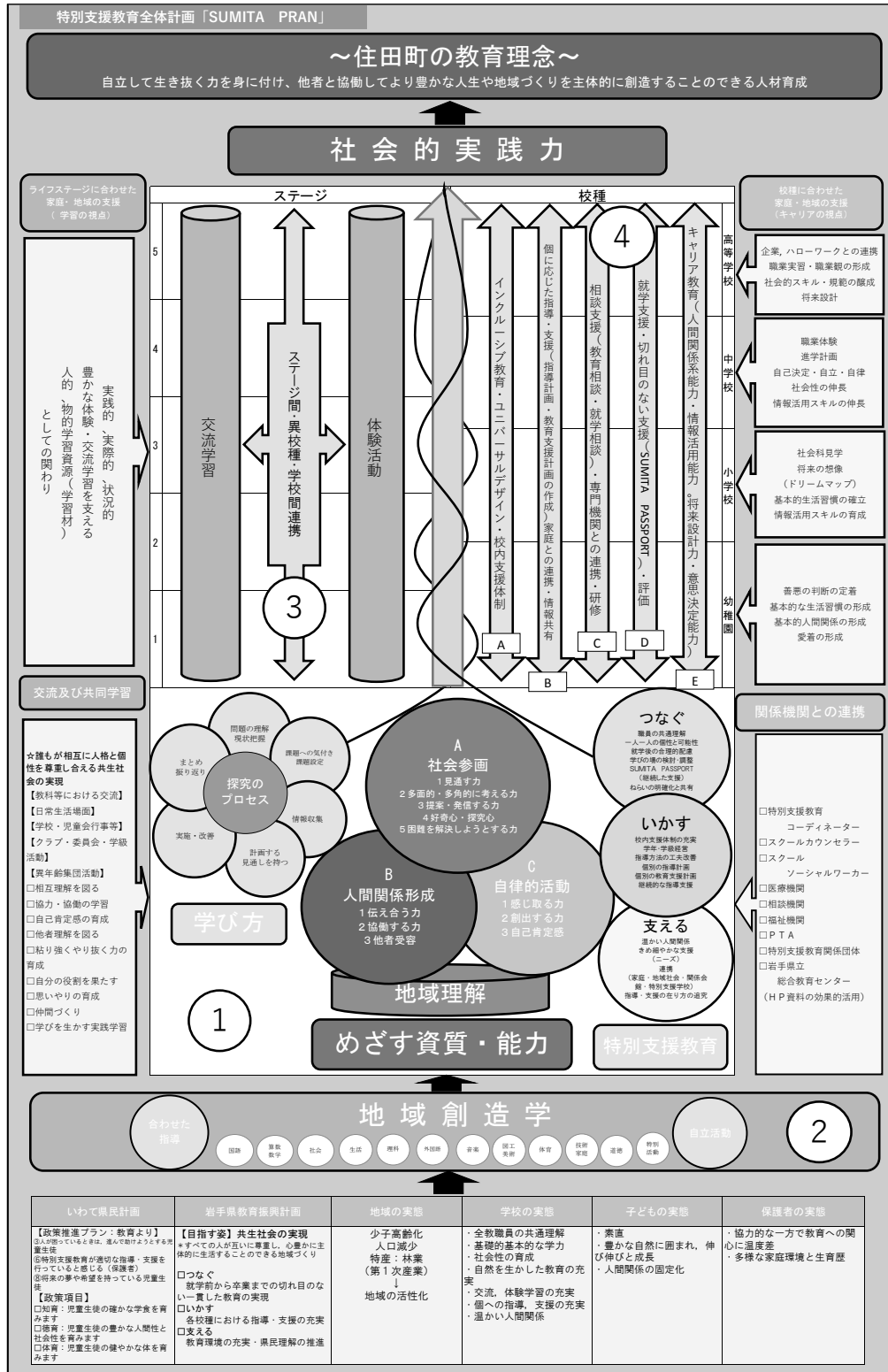
点12項目に関する児童生徒の現状を、「○」と「☆」で評価する。「○」は当該資質・能力がステージに比して十分に身に付いていることを示し、「☆」は当該児童生徒の現状や性格、能力等を踏まえ、育んでいきたい資質・能力の重点項目を示す。これにより、児童生徒の社会的実践力の強みや育みたい資質・能力、指導・支援の目的が明確になる。また、それを学年及びステージ間で見ること、成長・変容を一体的に捉えることが可能になる。文部科学省（2019）「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」によると、「児童生徒の障害の状態等を十分理解し、児童生徒一人一人の学習状況を一層丁寧に把握する工夫」が求められており、特別支援学校の各教科においては、「文章による記述という考え方を維持しつつ、観点別の学習状況を踏まえた評価を取り入れる」ことが述べられている¹⁶⁾。このことから、記述評価の必要性を踏まえ、マークによる評価だけでなく、具体的なエピソードや支援方法を文章化する特記事項欄も設けた。そうすることで、児童・生徒の成長・変容の要因や、特徴・性格等を踏まえた効果的な支援を引き継ぐことができる。つまり、社会的実践力の視点から、学校間をつなぐ教職員の共通理解、有効な支援の継続、新たな支援方法の考案につながることを考えられる。

- ②「SUMITA PASSPORT」の作成に関わり、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」との親和性も重視した。山口・岩田（2017）によると、通常学校における特別支援教育の現場においては、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成が、（教員の）ストレスや負担感につながることを指摘されている¹⁷⁾。そこで、「SUMITA PASSPORT」では、簡潔さや記述量の調整に心掛けた。また、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」と合わせた活用を想定し、重複を避け、最低限必要な情報のみを含むよう検討した。池田・安藤（2012）は、「個別の指導計画」の活用の課題として、「個別の指導計画」を作成したものの、授業や引き継ぎに「つ

ながらない」ことを指摘している¹⁸⁾。そこで、「SUMITA PASSPORT」では、その後の活用を見越した実践可能な取組とするため、『地域創造学』の縦断的視点を生かし、1枚で小学校

段階から高等学校段階までの12年間を見取れる様式にしている。「個別の教育支援計画」と合わせた合理的かつ効果的な活用が期待される。

図表7 特別支援教育全体計画



図表 8

単元配列表「特別支援（学級）版」

		住田町【地域創造学】年間単元配列〈特別支援(学級)版〉											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別支援の 視点	● 入学・進級を お祝いしよう	● 入学・進級を お祝いしよう											
	● 就業体験 自分に合った仕事、やりたい仕事	● 就業体験 自分に合った仕事、やりたい仕事											
第1ステージ	自分自身や 身近な人々 に関心をもつ。基本的 的生活習慣を 身に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
	自分自身や 身近な人々、 地域の特徴に 気付く。身近 な生活におい て必要な習 慣や技能を身 に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
第2ステージ	自分自身、身 近な人々、地 域社会および 自然の特徴や よさに気付く。 生活に必要な 習慣や技能を 身に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
	自分自身、身 近な人々、地 域社会および 自然の特徴や よさに気付く。 生活に必要な 習慣や技能を 身に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
第3ステージ	自分自身、身 近な人々、地 域社会および 自然の特徴や よさに気付く。 生活に必要な 習慣や技能を 身に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
	自分自身、身 近な人々、地 域社会および 自然の特徴や よさに気付く。 生活に必要な 習慣や技能を 身に付ける。	● 入学・進級を お祝いしよう											
第4ステージ	生活や職業に 対する関心 を深め、 将来の生活に 必要な基礎 的知識や技能 を育てる。	● 入学・進級を お祝いしよう											
	生活や職業に 対する関心 を深め、 将来の生活に 必要な基礎 的知識や技能 を育てる。	● 入学・進級を お祝いしよう											
第5ステージ	職業への理 解を深める。 将来の職業 生活、家庭 生活を考え、 地域社会へ の参画、貢献 を意識する。	● 入学・進級を お祝いしよう											
	職業への理 解を深める。 将来の職業 生活、家庭 生活を考え、 地域社会へ の参画、貢献 を意識する。	● 入学・進級を お祝いしよう											

● 入学・進級を
お祝いしよう

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

交流学習 特別支援学級 単独単元

文化祭等の販路も検討する
市内へ農産物や木工製品をお世話になる方へ送ります。

通年の取組とする

必要に応じて随時行う

全学年 水やり、草取り、収穫を通常で行う

お世話になった方を招待

● 入学・進級を
お祝いしよう

● 入学・進級を
お祝いしよう

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

● 入学・進級を
お祝いしよう

● 入学・進級を
お祝いしよう

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

● 就業体験
自分に合った仕事、やりたい仕事

(4) 課題

- ・より実践的・实际的な「特別支援教育全体計画」とするために、住田町との双方向による検討を加え、確かな実践、評価に基づいた改善・修正が不可欠である。
- ・単元配列表は、既存の「地域創造学」の単元を基本とし、特別支援の単元を入れ込んだが、共通単元については、児童生徒の実態に応じて、学習内容を精選する必要がある。また、全体の目標を達成するために、単独単元ではより児童生徒の実態に応じた内容や単元設定を行い、必要に応じて修正を加える必要がある。特別な配慮を必要とする児童生徒にとって、見通しをもちやすくするために単元間のつながり、学年間のつながり、ステージ間のつながりを意識した単元計画も重視される。高等学校では、特別な配慮を必要とする生徒に対する指導の個別化及び独自性をどのように行うかが課題である。
- ・「SUMITA PASSPORT」は、より効果的に実践されるために、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の内容も併せて検討していく必要がある。同時に、地域創造学において育まれる資質・能力が、特別支援教育の対象となる児童生徒に合ったものかどうかの検討が必要である。

(文責：佐々木尚子・板井直之・原田孝祐・大森響生)

第4章 本研究提案の成果と課題

今回の提案発表は、中山間地域の実態をしっかりと捉え、住田町が取り組んでいる研究開発にとっても参考になる点が多い発表だと率直に感じることができた。以下、各テーマ毎に成果と課題を述べる。

1 総合的学習の提案について

(1) 探究プロセスの系統表について

縦軸に学年・校種間における地域理解の具体が示されていた。本町の研究においても、ステージ

の各段階で目指していくべき大枠のテーマとは何なのか、どのように設定すべきなのか等について議論が行われているが、12の資質能力全てを網羅した上でのテーマを設定することに難しさを感じていた。その中で「地域理解」の資質能力に焦点を絞って各段階的に具体を示すという視点は非常に参考になった。

(2) 教科との関連表について

「学習内容」、「探究のプロセス」、「資質・能力」という3つの視点から関連表を作成している点が非常に参考になった。本町の研究においても教科との関連に関して部会を中心に取り組んでいるが、整理する視点を持って教科との関連に取り組むことの重要性を再認識させられた。課題としては、本町にも言えることであるが、現場の教員がいかに教科との関連を意識して日々の授業づくりに取り組んでいくのかについてである。そのためには、これらの教科との関連を意識した授業モデルを提示していくことも必要であるように感じた。

2 特別支援教育の提案について

(1) 単元配列表について

特別支援の視点で交流単元と独自単元を設定していることに配慮の深さを感じた。また、コンテンツに関しても縦のつながりがしっかりと意識されていた。支援が必要な生徒のことも視野に入れながら、コンテンツの系統性を大切に単元配列にしていかなければならないことを再認識させられた。

(2) 「SUMITA PASSPORT」について

「キャリアパスポート」の考え方を基に、児童・生徒一人一人の「社会的実践力」に関わる強みや課題を1枚のシートで見とれるようにするという視点が、非常に勉強になった。幼・小・中・高と教師が評価したシートをバトンのようにつないでいく考え方は、本町の地域創造学において生徒がポートフォリオとして活用しているファイルを教師側の視点で有効活用していくためのヒントになるのではないかと率直に感じることができた。

(文責：千葉邦彦)

第5章 今後への期待

前期「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」と後期「学習指導要領とカリキュラム開発」の2つの授業は、カリキュラムの考え方やカリキュラムを開発する力を身に付けることを目的として行ったものである。この2つの授業を通して、院生は、カリキュラム・マネジメントの必要性や考え方を理解するとともに、実際にカリキュラムを作成することにより、カリキュラムを開発する力が身に付いたと考える。

新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を子供たちに育むために、各学校が教育活動全体を通して社会に開かれた教育課程を実現することを求めており、特にも、異校種間の接続やカリキュラム・マネジメントがますます重要視されている。

総合的学習のカリキュラムは、住田町の「地域創造学」をベースに、小中高の12年間を見通しながら5つのステージを設定し校種間の接続を円滑にできるよう試みた。また、社会参画に関する力を育成するために、地域との連携も重視した計画となっている。特別支援教育においても同様に小中高12年間を見通し系統立てた計画となっており、さらにSUMITA PASSPORTを用いることにより指導の継続性を図ることができるものとなっている。

このように、今回小・中学校だけではなく高校までを見通したカリキュラムを開発できたことは、今後の岩手県における教育活動の幅を大きく広げさらに充実させていくことができるものと考えられる。

今後、今回作成したカリキュラムを学校現場で実践し、さらに検証・工夫・改善に努めていくことを期待したい。

（文責：小岩和彦）

<注および引用・参考文献>

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編」（2018年2月28日）、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編」（2018年3月30日）、および文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年度）解説 総合的な探究の時間編」（2019年3月28日）参照
- 2) 岩手県政策地域部政策推進室「いわて県民計画（2019～2028）」（2019年1月24日）参照
- 3) 長野県教育委員会「中山間地域における学び」検討プロジェクトチーム「中山間地域における学びに関する検討結果について」（2018年）参照
- 4) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編」（2018年2月28日）参照
- 5) 住田町教育委員会「学習指導要領解説（平成31年3月） 地域創造学編」（2019年3月）参照
- 6) 住田町教育委員会「第3年次学校公開研究会（中間発表）資料」（2019年11月29日）参照
- 7) 同上
- 8) 文部科学省『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果』2012年参照
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf
- 9) 文部科学省『特別支援教育関係資料』2014年、p2、p4
- 10) 岩手県教育委員会『岩手の特別支援教育』（岩手県特別支援教育資料）2020年、pp.18-19
- 11) 前掲、住田町教育委員会「第3年次学校公開研究会（中間発表）資料」参照
- 12) 岩手県教育委員会『いわて特別支援教育推進プラン ～「共に学び、共に育つ教育」の推進』2019年参照
- 13) 岩手県教育委員会『岩手県教育振興計画』（平成31年3月）pp. 42-47（図表1）および、岩手

- 県教育委員会『岩手県教育指導指針』（平成31年度）p. 13（図表1）参照
- 14) 岩手県立総合教育センター 教育支援相談(手引き・ソフト・資料等)『校内資源を活用した校内支援実践事例集』参照 <http://www1.iwate-ed.jp/>
- 15) 文部科学省「『キャリア・パスポート』の様式と指導上の留意事項（案）」2019年参照
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/143/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/02/20/1413594_002.pdf
- 16) 文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」2019年参照
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/_icsFiles/afieldfile/2019/01/21/1412838_1_1.pdf
- 17) 山口順也・岩田吉生「小中学校の特別支援学校の教員の精神健康度とストレス要因—メンタルヘルスチェックの分析結果から—」教職キャリアセンター紀要2、2017年、pp. 33-44
- 18) 池田彩乃・安藤隆男「個別の指導計画の作成及び活用」に小学校の通常学級教師が主体的に関わるための研究」. 『障害科学研究 36』2012年、pp. 135-143

謝辞：

本論文作成に当たっては、岩手県教育委員会事務局学校教育課指導主事の皆様、住田町教育長・菊池宏様をはじめとする住田町教育委員会の皆様、世田米小学校・有住小学校・世田米中学校・有住中学校・住田高等学校の教職員の皆様など、多くの方々にご協力いただきました。末尾になりましたが、あらためて感謝申し上げます。